

2021 年度事業計画

基本方針：くまもと障害者労働センターの目指すもの

- (1) 障害のあるなしだけでなく様々な困難を抱える人も含め、誰もが共に働くことができる場として社会的事業所の可能性を拓いていきます。
- (2) 収益性のある事業を通し、年金と働いて得た給料で地域での生活が可能となるだけの所得保障を進めていきます。所得保障の先に、自ら望む人生の選択を増やしていきます。
- (3) 働くことを通し差別がなくなっていく共生社会をめざしていきます。

運営の目標

2020 年度、待望の新社屋が完成（12/22、引き渡し）。2021 年度は、定員 20 名から 30 名（生活介護 6 名から 10 名、就労継続支援 B 型 14 名から 20 名）への定員増を予定している。

2021 年度は、今後のセンターにとって飛躍の一年となることを目指し以下のことを重点的に取り組んでいく。

(1) 新社屋で更なる収益性のある事業を確立していく

定員増を予定しており、更なる就労支援事業の売上増を図っていく。

現在、菓子製造、販売、印刷・事務、作業、カフェ、弁当製造・販売の仕事を行っている。今までは、各仕事場が点在しており連携を図ることが大きな課題となっていた。しかし、新社屋の建設により、各事業が普段から連携することが可能となった。人的・物的な効率化を図ることで、売上増だけでなく、経費面の見直しも行うことにより収益の確保に努めていく。

(2) 障害者の働く場作りと居場所作り

センターができて 35 年以上が経過し、設立当初より働いてきた障害当事者の中には、障害の重度化により、生産性の問われる仕事が困難な状況も見られる。また、体調を崩し長期間休みとなる者も増えている。重度の障害があっても、今ある力を発揮し社会に参加したいという願いにこたえられる場所として、センターとしての新たな仕事作り、事業展開を模索していく。

働く場作りと居場所作りと相反するが、働くだけの場所ではなく、今まで育んできた障害者運動を伝え、新たな運動を生み出していく場所であり、週末の余暇活動を応援できる場所を作っていく。

就労支援事業事業計画

(1) 菓子製造、販売、イベント交流、事務IT、作業部

コロナウイルスの流行による菓子製造・販売、イベント交流による売り上げが大きく低下した。しかしながら、プチギフトなど企画を実施し、日ごろ弁当の注文をいただいているお客様より注文をいただいた。対面での販売だけに頼らず、ギフト企画の充実を図り売り上げの確保に努める。

- ・年8回のギフト企画、チラシの作成（現在、年4回）
- ・企画にあわせ機関紙 WITH の発行（現在、年5回）
- ・日々のブログの発信内容の充実・熊本県、市以外の近隣市町村への障害者優先調達推進法を利用したトイレトペーパーの営業
- ・プチギフトの展開に力を入れ、新規顧客の獲得
- ・菓子製造で働く人材の育成
- ・講演ができる人材の育成と講演活動の広告宣伝の実施

(2) カフェ、弁当部

新社屋完成により、カフェと弁当製造が同一建物で営業可能となった。人の効率化、食事だけでなくデザート・ドリンクについても配達・テイクアウトの実施、総菜販売など、他部署との連携によるサービスの充実を図っていく。

- ・一日 250 食の弁当提供（現在、一日 120 食）
- ・弁当の営業、配達ルートの検討
- ・会議用弁当の受注（弁当の土曜日営業について検討）
- ・他社とのコラボ弁当の企画
- ・給食等の委託による受注
- ・菓子製造と連携し季節に合わせたデザートの提供
- ・ドリンク等のテイクアウト販売（トランポリン利用者等）
- ・総菜の販売と営業
- ・接客マナー、衛生面について内部研修の企画
- ・勤務時間、働き方の検討

福祉サービス事業計画

(1) 生活介護、就労継続支援B型

2021度は、定員増を予定している。新しく働き始める人たちの受け入れが始まる一方で、障害の重度化、病気の状態悪化による入院、家庭環境の変化などにより、長期間休む人が目立ってきている。まずは、現在働くメンバーの安定的な就労が継続できる環境の整備、就労時間の調整等を図っていく。

また、障害の重度化による生産的な仕事が難しくなってきたメンバーも出てきており、障害者運動などの参加や取り組み、地域との交流、余暇活動の実施など、今までセンターで十分に行えなかった活動についても力をいれ取り組んでいく。

- ・医療機関、相談支援事業所をはじめ関係機関と連携を図り、生活面での安定を図る
- ・仕事の確保と環境整備により、希望にあわせた就労日数・時間の実現。
- ・生産的な活動以外での、多様な活動への取り組み
- ・月に一回、日曜日の活動の実施について検討（HKTプロジェクト）

(2) おれんじ村 I n c . 【相談支援事業】

現在、障害者 49 名、障害児 34 名の計 83 名の相談を担当している。障害の重度化、病状の変化、家庭環境の変化などによりモニタリング回数の増量が必要となるケースが増えており、相談件数としては横ばい状態である。

障害があっても自ら望むライフステージが実現できるように、制度の活用だけでなくインフォーマルなサービスの利用や新たなサービスの開発など取り組んでいく。

(3) その他

2018年9月にメンバー内での結婚出産があり、お子さんが1歳の時期を目安に親子が一緒に暮らせるように準備を進めてきた。しかしながら、支援体制の問題等もあり、現在も親子別々の生活を余儀なくされている。

2020年度はコロナウイルスの流行により、面会制限などもあり予定通りに進まなかったが、定期的に関係者会議を行いながら、3歳から自宅での生活を目標に外出の練習を実施している。

センターとしても、制度では不足する部分に対して、多くの方へ応援依頼をしながら、親子3人の暮らしが実現するためのボランティア組織（仮称：応援し隊）を企画していく。

公益事業計画

(1) 共生ホーム元気

現在、センターのメンバー2名が、お互いに協力をしながら生活をしている。障害の重度化、病気の重症化などにより、生活面へのサポートが徐々に必要となってきた。施設ではなく、地域での生活を続けていくための、内部だけでなく外部サービスとの連携も含めたサポート体制を構築していく。

また、新規建物の建築により、おれんじ村 I n c . (相談支援事業) を本部建物へ移行。おれんじ村 I n c . の建物が空くことになる。地域での自立生活を目指している人の募集を募り、共生ホーム元気と同じように公益事業としての利用を進めていく。

- ・食事体制、健康管理（健康相談、服薬の管理など）、住環境（掃除など）などサポート体制の検討
- ・新しい入居者の募集

人員体制

(1) 多機能型（生活介護、就労継続支援B型）

施設長兼サービス管理責任者	常勤 1 名	兼務
事務長	常勤 1 名	兼務
生活支援員	常勤 7 名 非常勤 3 名	
職業指導員	非常勤 1 名	
目標工賃達成指導員	非常勤 2 名	
看護師	非常勤 1 名	
調理員	常勤 1 名、非常勤 1 名	

(2) 相談支援事業

管理者	常勤 1 名	兼務
相談支援専門員	常勤 2 名	兼務 1 名

2021 年度年間計画

4 月		10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋祭り ・ ハロウィンギフト ・ 機関紙 W I T H 発行⑤
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの日、母の日ギフト ・ 機関紙 W I T H 発行① 	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬ギフト ・ 機関紙 W I T H 発行⑥
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算理事会、定時評議員会 ・ 父の日ギフト ・ 機関紙 W I T H 発行② 	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ もちつき ・ 忘年会
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏ギフト ・ 機関紙 W I T H 発行③ ・ 津久井やまゆり園追悼集会 	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書初め ・ 虐待防止研修会（内部）
8 月		2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ バレンタインギフト ・ 機関紙 W I T H 発行⑦
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敬老の日ギフト ・ 機関紙 W I T H 発行④ ・ 避難訓練 ・ 健康診断 	3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算理事会、評議員会 ・ 避難訓練（3/11） ・ 健康診断 ・ ホワイトデイギフト ・ 機関紙 W I T H 発行⑧